



出荷されたキュウリを確認するJA職員



4/30

## 促成キュウリ 出荷始まる JAきゅうり部会

JA管内の促成キュウリの出荷が始まり、JAの看板の夏秋野菜5品目の流通に向け、先陣を切りました。生産者の本田幸さん（花泉）は、「例年より気温が高く、生育への影響が懸念される。良品をたくさん収穫できるように努めたい」と意気込みました。

4/22

## 相互研修で品質向上狙う JAトマト部会



トマトの生育と圃場の状況を観察する参加者

半促成トマト相互巡回指導を行いました。生産者の圃場6カ所を巡回し、生育状況を確認しながら今後の管理を指導しました。（株）サカタのタネの赤根勘人さんは「かん

さんは「かん水時は、地温を下げないよう水温やタイミングに注意してほしい」と指導しました。

4/25

## 挿し芽育苗の注意点確認 JA花き部会りんどう専門部



育苗時の注意点を確認した指導会

リンドウ挿し芽指導会を開きました。6月上旬から始まる定植に向け、参加した生産者は育苗マニュアルを見ながら、親株からの採穂や挿し穂の調整、挿し芽のポイント、育苗管理をする際の注意点などを確認し、良品生産に向けて意識を高めました。

5/14

## 摘果作業のポイント確認 JA果樹部会りんご専門部



リンゴの生育状況を確認する生産者

リンゴ定例指導会を管内7会場で開き、結実状況や摘果作業のポイントなどを確認しました。一関農業改良普及センターの遠藤歩美 及センターの遠藤歩美 上席農業改良普及員が、各地域の品種ごとの開花状況を報告し、摘果剤の散布時期、病害虫防除について説明しました。

5/9

## ドローンで作業を効率化 (農)ファーム滝沢(一関)



ドローンでの散播作業を見守る組合員

作業省力化と労働力軽減を図ろうと、JA全農いわてに業務委託し、ドローンによる水の種子湛水直播を行いました。9.6畝の水田に、鉄コーティングした種子644キを散播しました。ドローンでの散播は今年で3年目。来年以降も面積拡大を予定しています。



広大な牧野でのびのび過ごす牛たち

5/1

### 畜産の振興と安全を願う

J Aが指定管理を受けている公共牧場の令和7年度開牧式と安全祈願祭を室根高原牧野で行い、管内の畜産振興とシーズン中の安全を祈願しました。那須元一専務は「今年も放牧開始の時期がやってきた。牛と作業従事者の安全を願う」とあいさつしました。



水稲苗の生育状況を確認する関係者

5/1

### 巡回で水稲苗の生育確認 J A金色の風・銀河のしずく栽培研究会

水稲育苗巡回を行いました。新規栽培者を中心に、水稲苗の生育状況や栽培管理状況、病害の発生状況や田植え日などを確認しました。J A管内では令和7年度、「金色の風」を17経営体で64畝、「銀河のしずく」は45経営体で78畝の作付けを予定しています。



あいさつをする小野寺節子前会長

5/21

### 笑顔での活動継続を誓う JAハートフル

第9回通常総会を開きました。これからの超高齢化社会を笑顔で迎えられるよう継続した活動を展開していくことを決め、新会長に川崎支部の菅原君代さんを選任しました。



生育を確認する参加者

4/22

### 巡回指導で技術向上狙う J A花き部会

栽培初心者セミナーを行いました。栽培歴が浅い生産者の圃場を巡回し、圃場管理や病害虫防除、農薬散布などを指導する際の注意点を確認し、技術習得に努めました。



水稲苗を手渡しする新採用職員⑥

5/8

### 農作業通じ地域農業学ぶ

新採用職員農業研修を行いました。入組1年目の職員が田植え作業を体験しました。J A花泉支店の小野寺龍也職員は「初めて農作業をしてみて、やりがいを感じた」と話しました。



栽培管理技術を学ぶ参加者

5/15

### データ駆動型農業に理解 県南広域振興局農政部

トマト栽培管理研修会を行いました。外気導入（高温対策）事例と、環境モニタリングデータ活用事例の現地研修を行い、データ駆動型農業に理解を深めました。



テープカットで子ども食堂のスタートを祝う参加者

5/2

### 子ども食堂の始動を祝う 川の駅子ども食堂を運営する会(川崎)

住民同士のふれあいの機会を増やそうと、第1回子ども食堂を開きました。J A川崎青年部や地元団体などが食材を提供。カレーライスを作り、幅広い世代が昼食を囲みました。



一生懸命に種芋を植える子どもたち

4/19

### 種芋を植えて収穫に期待 いつてみっぺし藤沢

子ども食堂に参加する園児・児童6人と保護者は、J A女性部藤沢中央支部の指導で、「男爵イモ」「とうや」の種芋を植え、秋の収穫に大きな期待を膨らませました。



5/17

ミニトマト成長に  
わくわく



ミニトマトの植え付けを学ぶ小学生

小学生とJAのふれあいイベント「わくわく純情プランター」を、JA西部営農振興センターで開きました。JAの若手職員がミニトマトの植え付け指導やJAについて説明し、お楽しみ抽選会を行いました。イベントは6月と8月にも開催される予定です。



5/8 川崎小学校

5年生17人は、(農)門崎ファーム所有のメダカが生息する田んぼで、ひとめぼれの苗を手植えました。



4/22 龍澤寺こども園(一関)

年長児34人は、JA一関青年部中里支部と一緒に、こがねもちの種まきをしました。

笑顔  
あふれる  
農業体験



5/15 東山小学校

5年生23人は、千葉健一さん(東山)の指導で、こがねもちの苗を手作業で植えました。



5/9 黄海小学校(藤沢)

5年生9人は、耕作支援隊や老人クラブの指導で、こがねもちの手植えと機械植えの体験をしました。



5/9 滝沢小学校(一関)

5年生22人は、JA一関青年部真滝支部の指導で、ひとめぼれの苗を手作業で植えました。



5/19 山目小学校(一関)

2年生67人は、大住正樹さん(藤沢)の指導で、ミニトマトの育て方を勉強しました。



5/16 赤荻小学校(一関)

5年生48人は、阿部邦弘さん(一関)の田んぼで、コシヒカリの苗を手作業で植えました。



5/15 巖美小学校(一関)

5年生15人は、佐藤克徳さん(一関)の田んぼで、手植え体験と機械植えの様子などを見学しました。